



ぽっかぽか



早いものでうさぎ組での生活もあと二ヶ月となりました。残りわずかではありますが、笑顔いっぱい
で過ごせるよう、たくさん遊んで元気に過ごしたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。

必要に応じて進級に向けた面談も行いますのでお気軽にお声掛け下さい。



わらべうたってなあに？

子ども会で、いつも遊んでいるわらべ歌を4つ見て頂きました。

そもそもわらべ歌ってなんでしょう。

わらべうたは、子どもたちが自然に触れたり、大人の仕事を見ることで、創り出し、歌い伝えてきたもの。

そして、遊ぶ中で仲間意識が芽生え、ルールを守る大切や身体の発達を促してきたものでもあります。

そんなわらべうたをすることで、保育園でも面白い変化もあります。

そこで、こども会で行ったわらべ歌の裏話をお伝えします。

子ども会のわらべ歌の裏話

「おはぎがおよめに」

おはぎが嫁入りする様子に見立てて、あんこときな粉で飾り付けられお盆に乗せられて運ばれる情景を歌った
遊び歌です。実は、地域によって最後の歌詞が違うんです。〈お腹の中〉や、関所についたことを示して〈下
関〉などなど。

うさぎ組では〈鬼が島〉なので、子どもたちは鬼に変身！ そして、「歯が痛い鬼」「可愛い鬼」「笑ってる鬼」
「足が痛い鬼」などになりたい鬼がたくさん出てきてエンドレスで楽しんでいました。



「ぶたがぶたれた」

ぶたが[叩かれた]でも[殴られた]でもなく「ぶたれた」という言葉を使うことで生まれた言葉遊びです。

こちらは、ゴツン！が面白くて何故ぶたれたのか…と指を一本一本摘まんで数えながら伝えているのですが、
意味を理解するまでは至っていないうさぎ組さん(*_*; 歌い終わると必ず、「なんでぶたさん、ぶたれた
の？」と質問が跳んできます。

いつか分かるかな？^m^

「なべなべそこぬけ」

鍋の底が穴だらけだった時代の生活を反映したわらべ歌です。昔は、穴が開いたらそこをふさぐ「鑄掛屋（い
かけや）」という職業も存在したそうです。大事に使い続けていたのですね。

2人組で両手をつなぎ、つないだ手のトンネルをくぐって背中合わせになったり、戻ったり。この年齢にな
ったからこそ「面白い！」「戻れた！」「できた！」と達成感を感じて楽しめたわらべ歌です。どこをくぐるの
か、くぐることも理解できなくてこんがらがってグラグラ笑っていた子供たち。何度も何度もやってみるこ
とで出来るようになりました。



「もぐらどんのおやどかね」

田んぼの土の中に暮らすもぐらを題材にした日本の伝統的なわらべ歌です。土の中のどこにいるのか探し当
ててもぐらを起こす様子を表現しています。

うさぎ組になった当初から少しずつ始めていた遊びです。

実は、数人で手を繋いで輪になる事は難しい動作なんです。手を繋ぐと前に後ろに動きたくなくなってしまい、
転んだり手が離れたり。更に、皆で息を合わせてもぐらの周りを回るなんて!!

それでも、繰り返し遊ぶうちに友達顔を見て手を繋いで回ることが楽しくなり、最近では保育者がいなく
ても遊ぶ様子も見られるようになってきました。

そして最後に、もぐら役の子が友達をタッチして役交代。ここまでできるようになりました♪

年長組では、大人数が参加して鬼ごっこをしています。それを見ているので、きっといつか鬼ごっこに発展
すると思います。

この4つのわらべ歌で遊ぶうちに、友達とゲーム遊びの楽しさ、指が5本あることの気づき、5まで数え
ること、グーとパーとチョキが出来るようになるなどなど、たくさん成長したうさぎ組の子供たち。
これからも色々なわらべ歌を伝承し、一人一人の成長を見守っていきたいと思います。



子ども会ご来場ありがとうございました！
練習もこんなに集中していた子どもたちです♪